

# 学校における情報リテラシーと情報モラル教育のあり方の検討

## —日本とタイ調査—

Suitable educational trainings in school concerning information literacy and information morality  
- Investigations in Japan and Thailand

宇都宮 由佳<sup>1</sup>, 本郷 健<sup>2</sup>, スィワナーソン パタニ<sup>3</sup>

<sup>1</sup>家政学部食物学科, <sup>2</sup>社会情報学部社会情報学科, <sup>3</sup>拓殖大学 非常勤講師

キーワード: 情報リテラシー, 情報モラル, 日本, タイ

### 1. 研究の目的

パソコンや携帯電話が普及し、生徒も日常的にインターネットを活用するようになった昨今、文部科学省は、情報教育で「情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的な資質」を身につけることを目標に掲げている。情報の特性の理解し、責任を持って望ましい情報社会に参画する方法を学ぶことは、現代の生徒達にとって自らの身を守る上でも非常に重要である。

本研究では、日本とタイの生徒達が、どのような情報教育を受け、パソコンのスキルやネット利用時の注意している点など、情報リテラシー及び情報モラルについて実態を明らかにする。両国を比較することで、双方の問題点が明らかとなり、情報教育の課題が浮き彫りできると考える。研究方法は、文献研究、生徒へのアンケート調査、教員や生徒へヒヤリング調査をする。本年度の調査結果は、学校での情報教育の在り方についての検討資料とし、現地の教育行政機関及び調査対象校で情報教育に活用されることになっている。

### 2. 活動実施報告

#### (1) 日本・タイの生徒を取り巻く情報問題

両国の文献・資料収集をした結果、日本では、チェーンメール、フィルタリングをすり抜けたネット詐欺・不当請求の被害、また最近では、スマートフォンの利用者が増加し、アプリの利用方法や個人情報の管理があげられた。タイでは、ネットの長時間利用、特にネットゲームの依存が問題視されている。また、最近減少はしているが、コピーソフト利用の問題があげられた。共通問題としては、ネットにおけるコミュニケーションをいかに生徒達が安全に行えるかであった。

#### (2) 日本・タイの情報教育に対する実態比較

日本では、学校での ICT 導入が一部始まっているが、授業は中学生からで主要科目(国語や数学)に比べると時間数は少なく、情報教育を担う専門教員の不足している。

タイでは、職業訓練の一環として情報教育に力を入れており、小学校低学年からスタートする。しかし、日本と同様、情報の専門教員は不足しているため、タイ文科省は教員への情報教育の講座および授業で使えるソフト、DVD を無料で貸し出していた。また、学校の規模により PC 1 台あたり使用できる児童生徒数は、平均 30-40 人、学校によっては 70 人のところもあった。

#### (3) 情報リテラシー・モラルに関する調査結果

日本とタイのクロス分析の結果、情報リテラシーについて、日本では情報検索や文章を書くなどだが、タイは、パソコンスキルが良い就職先につながることもあり、ソフトを自ら入手し、プレゼンテーション、表計算、画像処理など高いスキルがある。インターネット他、情報メディアの接触時間は日本よりタイが長かった。

日本の生徒は、タイに比べ圧倒的に使えるパソコンスキルが低く、これまでの調査より差が広がったように見える。またタイの生徒は、学校である程度習うと、後は独学で写真加工、動画アップなどの操作を身につけていた(表1)。

ネット情報について、日本では「ネットにはデマやサクラなど偽情報が含まれている可能性がある」と警戒心があった。一方タイは、警戒心は日本程でないが「情報源がどこか」「情報内容の新鮮さ(いつ更新されたのか)」「ネット情報だけでなく、テレビや新聞など複数の媒体で情報比較する」などの対応がみられた。

表 1. パソコンスキルの習得先

		授業	独学	きょうだい	友達	親	大人	その他	出来ない
文書	日本	41.1%	33.9%	3.6%	0.0%	10.9%	0.5%	1.0%	8.9%
	タイ	55.2%	30.2%	5.2%	1.7%	5.2%	1.7%	0.9%	0.0%
表計算	日本	5.4%	12.0%	0.0%	0.5%	8.2%	0.0%	2.7%	71.2%
	タイ	73.5%	12.0%	5.1%	0.9%	4.3%	2.6%	0.9%	0.9%
プレゼン	日本	5.9%	5.9%	0.0%	0.5%	2.7%	0.0%	1.1%	83.9%
	タイ	58.1%	22.2%	6.8%	3.4%	5.1%	1.7%	2.6%	0.0%
写真加工	日本	6.4%	22.3%	3.2%	0.0%	13.8%	0.5%	3.2%	50.5%
	タイ	10.3%	43.1%	19.8%	12.9%	4.3%	1.7%	3.4%	4.3%
ネット検索	日本	17.2%	60.4%	5.2%	1.0%	7.8%	0.5%	1.0%	6.8%
	タイ	7.7%	82.1%	6.8%	1.7%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%
メール	日本	0.0%	31.7%	2.6%	1.1%	8.5%	0.0%	1.1%	55.0%
	タイ	9.4%	70.9%	12.0%	6.0%	0.9%	0.9%	0.0%	0.0%
SNS	日本	0.0%	16.0%	1.1%	2.7%	0.5%	0.0%	1.1%	78.7%
	タイ	0.9%	74.4%	10.3%	13.7%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
音楽動画アップ	日本	0.5%	21.8%	2.7%	0.5%	4.3%	0.5%	1.1%	68.6%
	タイ	1.7%	53.8%	9.4%	11.1%	0.0%	1.7%	4.3%	17.9%

情報モラルについて、違法コピーソフトを利用したことがあるかは、日本は約 2 割、タイは約 4 割であった。利用する理由について、「便利だから」日本 7 割弱、タイ 8 割、「簡単にできる」日本 6 割、タイ 5 割であった。「お金がない」は、両国ともにわずか 1 割で、違法コピーソフトを活用するのは、簡単、便利ということであった。

### 3. 研究目標の達成状況

#### (1) 資料・文献資料の収集

日本では、文部科学省スポーツ・青少年局、(社)著作権情報センター、実教出版より、情報モラル・著作権等に関する DVD、資料、情報科目の教科書を収集した。タイでは、information and communication technology survey、情報機器の保有状況・ネット利用状況等の情報に関する統計資料、中学生の情報教材等を収集することができた。

#### (2) アンケート調査

宇都宮・本郷・スィワナーソンで質問項目を検討し記述式質問紙を作成した。平成 23 年 8 月にタイで、中学 2 年生 (男子 54 名、女子 58 名) を対象にアンケート調査および面接聞き取り調査を実施した。(スィワナーソンが 8 月 3 日～25 日現地調査)。日本では、10 に本郷・宇都宮が、中学 2 年生 (男子 85 名、女子 105 名) にアンケート調査を実施した。継続して統計解析中である。

### 4. まとめと今後の課題

日本・タイの共通問題としては、ネットにおけるコミュニケーションをいかに生徒達が安全に行えるかであった。学校での情報教育は、タイが職業訓練の一つと位置づけ、小学校から授業に取り入れていた。平成 23 年度アンケート調査の結果、タイは日本比べパソコンスキルがある。学校であ

る程度習うと、後は自分達が必要なソフト写真加工などを独学または友人達から習い身につけていた。インターネット上の情報について、日本では警戒心が強いものの対応があまりなされていない。一方タイは、「情報源の確認」「媒体別情報比較」「情報の新鮮度」など気を配っており、ネット情報に対する対応の違いがより明確になった。

なぜ、このような違いが生じたのか、学校での情報教育内容の比較、情報教員の対応、生徒のネット情報に対する考えなど、補足アンケート調査や個別ヒヤリング調査が必要である。さらに、2011 年 8 月時点でタイの中学 2 年生は、実名登録のフェイスブック加入者が 9 割を超え、新たな問題が生じているとともに、適切な対応が急務である。

今後の課題として、調査結果をさらに分析して、これまで蓄積してきたデータをもとに、両国で望むべき学校における情報リテラシー、情報モラルなど情報教育の在り方について、現役の教員と共に具体的かつ実践的な対処方法、指導内容を検討し、明示していくことがあげられる。

### 5. 研究成果

#### 1) 著書、学術雑誌

[1] 宇都宮由佳・本郷健・松風嘉男・パタニ・スィワナーソン. 日本とタイにおける中学生の情報リテラシーと情報モラルの問題点—インターネットと携帯電話の利用実態を中心に—. 大妻女子大学家政学系紀要 2012 : 48 : p.21-31.

#### 2) 学会発表

[1] 宇都宮由佳. 日本とタイの中学生の情報リテラシーと情報モラルの問題—パソコンと携帯電話の利用実態から—. 第 27 回日本教育情報学会大会埼玉, 2011 年 8 月 21 日, p.264-265.